

保健所の食品衛生監視員の皆様へ

保健所の外国人対応能力強化
～外国人経営の飲食店に安心・安全を届けるために～

こんな
お悩み
ありませんか？

言葉の壁がある

衛生管理の考え方が違う

指導した内容が理解できているか不明である

食中毒について理解できているか不明である

食品管理の考え方が違う

文化などが日本と異なる



保健所の食品衛生指導にも新たな工夫が求められています。

①外国人が経営する飲食店の増加



外国人が日本で会社等を経営するために必要なビザである「経営・管理」ビザの取得人数も…
R1 2237人→R5 5295人と急増しています。

②言葉の壁がある



外国人経営者の会話レベルについて、
「ほとんどわからない、簡単な会話程度」が6.7%
「日常会話程度」で15.4%であり、
専門的な衛生指導は理解できていない人が一定数います。

日本政策金融公庫の
2020年調査より

このような状況に対応するため、
私たちの研究班では、
外国人にも分かりやすく食品衛生を伝えるための
ツールや仕組みを整えています。

グローバル化時代における保健所の機能強化と国際社会への貢献に関する研究班

食品衛生を伝えるための



ツールや仕組み 3つ

1 食中毒事例を活用した分かりやすい教材の作成



- 外国人経営の飲食店での食中毒事例をまとめ、「どこで間違いやすいのか」「どうすれば防げるのか」を動画で示します。
- 実際の事例を紹介することで、経営者に気づきを促します。

2 「やさしい日本語」を使ったパンフレットの作成



- 食品衛生の基本的な考え方を「やさしい日本語」とイラストで解説します。
- 難しい専門用語を避け、誰でも理解しやすい内容に仕上げます。

3 作成したパンフレットに沿った解説動画の配信



- パンフレットの内容に沿った動画を作成し、YouTubeで公開しています。
- パンフレットにはQRコードを載せ、すぐに動画が見られるようにしています。

↓ DOWNLOAD



- 研究班では「保健行政窓口のための外国人対応の手引き」や「保健行政のための多言語行政文書集」を作成しています。
- 全国保健所長会のホームページよりダウンロード可能ですので、ぜひご活用ください。

↓ DOWNLOAD

